(版權所有)

明治二十一年十一月廿七日印刷
明治二十一年十一月廿九日出版

每月一回發行
壹冊正價廿錢
全國無郵送稅

通信女學講義錄

第拾五卷

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

がはも徒のむすび

こその結び止めはも徒の格

やはも徒を結ぶ

文學一斑（第十四回）

語格（其十）結辭の續き

が　がながもがもながなやなどのなももあなやは詠歎の詞にして希求のがにそへたるなりがは然かあれかしと願望する意あり　後撰集「いとかくて止ぬるよりも稻妻の光の間にも君を見てしが　がな後撰集「名にしあはゞ相坂山のさねかづら人にしられでくるよしもがな。がも萬葉集「山ぶきの花の盛りにかくのごと君を見まくは千歳にもがも。がもな萬葉集「つねにもがもなとこをとめにて。がなや源氏柏木の卷とりかへすものにもがなやとうち嘆き給ひて云々。此等はいづれも希求の意ありて然あれかしと願ふ詞なる之

こそ　希求の詞にてよねなどに同じ然ど古き詞遣ひに多くして今は稀之　萬葉集廿卷浪華津にみ舟おろすゑやそかぬき今はこぎぬと妹につげこそ　このこそをこせねともいへることあり古事記「うれたくもなくなる鳥かこの鳥もうちやめこせね云々

や　詠嘆の詞　金葉集「音にきく高師の濱のあだ浪はかけじや袖のぬれもこそすれ　やにはくさ〳〵あり。古今集「妻こふる鹿ぞなくなる女郎花おのがすむ野の花としらずや」といへるやは疑の意をあらはし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

よ□ はも徒の格

も□ はも徒の格

を□ はも徒の格

古今集「今日こずば明日は雪とぞ降なましきえずはありとも花と見ましや□」といへるや□は反動の意をあらはし。古今集「名にしおはゞいざこととはん都鳥わが思ふ人はありやなしやと」と用ゐたるや□は問ひかくる詞なり。又後拾遺集なる「思ひいづることもあらじと見えつれどやといふにこそ驚かれぬれ」とあるや□は驚くときにいひ出らるゝ聲にして皆その意異なれば區別をわきまへて混ずべからず

よ□ 詠嘆の詞 後撰集「たえはつる物とは見つゝ笹蟹の糸をたのめる心ぼそさよ□」□よにも亦くさ〲あり神樂歌「にはとりはかけろとなきぬ起よ起よ」古今集「こけの衣よ□かわきだにせよ□」これらのよ□は然せよと使令する詞にして貫方集なる「わすれずよ□またかはらずよ□かはらやのしたゝく煙したむせびつゝ」といへるよ□はたゞ呼出す詞に用ゐるなり

も□ 詠嘆の詞 萬葉集「かみつけのくろほのねろのくずはがた悲しけ子等にいやさかりくも□」千載集「神代より津守の浦に宮居して經ぬらん年のかぎりしらずも□」

を□ 詠嘆の詞にしてや□よ□も□などゝ同じ類ひよはあれど多くは古き歌にのみ見ゆ 萬葉集「足引の山より出る月まつと人にはいひて妹まつ我を□」古今集「つひにゆく道とはかねて聞しかど昨日今日とはおもはざりしを□」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

か（反動）
はも徒の格

係辭第一段
はも徒
はと現在の―し

これも嘆きの意にはあれど用ゐざま萬葉集のとは少しく殊にしてものをの意を含めり。又古今集に「萩が花ちるらん小野のつゆ霜ぬれてをゆかんさ夜はふくとも」といへるをはこゝにいふ詠歎のをとは異にして只詞の調らべに用ゐしまでなれば別に意なき詞なりかこのかは前に（十四卷六二頁）出しゝ詠嘆のかとは異にして反動の詞ありはをそへてかはともいへり共に同じ意にて裏に反る詞　玉葉集「鹿の音を垣根にこめてきくのみか月もすみけり淺茅生のやど」一首の意は「鹿の音を垣根にこめて聞くのみかイエ〳〵夫バカリデナイ此ノ淺茅生の宿ハ月サヘモスンデ居リマスルといへるにて即ち反動の詞なり聞くのみか聞くのみデハナイと反るなり。古今集「聲たえずなけや鶯ひとゝせに再びとだに來べき春かは」このかはも同じく反動の詞にて「再びとだに來べき春かは再びとだに來べき春デハナイと云意也

係辭と結辭とを證する歌

係辭の第一段　はも徒および其結辭

はし 係辭 結辭 現在　古今集「こりずまに又もうき名は立ぬべし人にくからぬ世にしすまへば　同「あり明のつれなく見えし別より曉ばかりうきものはなし

文學一斑　語格

三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

もと現在のし

徒の結び現在のし

はと過去のき

もと過去のき

も係辭し結辭現在　拾遺集「我がせこを戀るもくるし」いとまあらバ拾ひて行ん戀わすれ貝　古今集「いざこゝに我が世ハ經なん菅原や伏見の里のあれまくもをし」

徒（はもぞのなにこそなどいふ係辭のなきを徒といへるなり）し結辭現在　萬葉集「衣手にみしぶつくまで植し田をひきた我はへ守れるくるし」　古今集「あなこひし」今もみてしが山賤の垣はに咲るやまとなでし子

は係辭き結辭過去　後撰集「風にしも何かまかせん櫻花にほひあかぬに散ハうかりき」　同「見ぬ人のかたみかてらハをらざりき」身になぞらふる花にしあらねバ

も係辭き結辭過去　萬葉集「かくばかり戀んものぞと思はねバ妹が袂をまかぬ夜もありき」　拾遺集「手枕のすき間の風

四

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「徒の結び過去のき」

以下古歌どもより係辭と結辭とに係はる句のみを出して例を示す

「はと打消しのず」

「もと打消しのず」

「も」さむかり「き」身はならはしの物にぞありける

徒　「き」結辭過去　萬葉集「みわ山の山邊まそゆふ短かゆふかくのみからに長くと思ひ「き」同「人ごとを繁みこちたみわはざり「き」心あるごと思ふなわが夫

係辭第一段のすぢは皆「は」「も」徒の結辭なれば前に擧たる歌どもにて餘は準らへて推知るゝあるべし然れば一々に一首の歌をかゝぐるも煩はしければ以下は正しき古歌の中より唯その係辭と結辭との個所のみを拔萃して例を示さん

「は」係辭「ず」結辭うちけしの詞　見しことは「あらず」うつゝは「は」臥どねられ「ず」

○「も」係辭「ず」結辭　道「も」しられ「ず」神代「も」きか「ず」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

徒の結び打消―のず
はとり
もとり
徒の結びり
はとけり
もとけり
徒の結びけり
はとめり
もとめり
徒の結びめり
はとぬ

○徒　かぎり知れず　足引の山はとゝぎすのみなら
ず　○は係辭　り結辭　人に逢んつきのなきにハ云々心や
けをり　○も係辭　り結辭　聲のうちにもおもふ心あり
○徒　ことかたらんとおもふ心なり
は係辭　けり結辭　年の内に春ハきにけり　○も係辭　けり結辭
年に稀なる人もまちけり　○徒　わが宿の池の
藤波さきにけり
は係辭　めり結辭　とふに問れぬ身ハうきぬめり　○も係辭
めり結辭　五月雨に日もくれぬめり　○徒　立田川
もみぢ亂れて流るめり
は係辭　ぬ結辭　ちりかふ花に道ハまどひぬ　○も係辭　ぬ結辭

六

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

も　と　ぬ
徒の結びぬ
は　と　つ
も　と　つ
徒の結びつ
は　と　まじ
は　と　む
も　と　む
徒の結びむ
は　と　まし
も　と　まし

限(くま)なき月(つき)の影(かげ)もうかひぬ　○徒(たゞ)　梓弓(あづさゆみ)おして春(はる)
雨(さめ)けふふりぬ
は係辭　つ結辭　霧(きり)にまよひて今日(けふ)はくらしつ　○も係辭　つ
結辭　今朝(けさ)はしも起(おき)なんかたもしらざりつ　○徒(たゞ)
花の都にやしろ定(さだ)めつ
は係辭　まじ結辭　この世(よ)にはまたも見(み)るまじ
は係辭　む結辭　雪(ゆき)のまに〳〵跡(あと)は、たづねむ　○も係辭　む結辭
戀(こひ)しくは見(み)ても忍(しの)ばむ　○徒　鏡山(かゞみやま)いざ立(たち)よりて
見(み)てゆかむ
は係辭　まし結辭　春の心はのどけからまし　○も係辭　まし
結辭　逢(あひ)みずば戀(こひ)しきこともおからまし　○徒(たゞ)　思

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

徒の結びまし□
は□となり□
も□となり□
徒の結びなり□
は□となん□
も□となん□
徒の結びなん□
は□とけん□
も□とけん□
徒の結びけん□
は□とらん□

ひおくことなからまし□
は□係辞なり□結辞 なるゝを人ハ□いとふべらなり□ ○も□係辞
なり□結辞 みな上下の人も□いふなり□ ○徒 蘆の枯
葉に風わたるなり□
は□係辞なん□結辞 心ハ□花になさバなりなん□ ○も□係辞なん
結辞 末の松山なみもこえなん□ ○徒 末つむ花の色
に出なん□
は□係辞けん□結辞 花ゆゑにあかぬ別れハ□ならひけん□ ○
も□係辞けん□結辞 なき人も□思はざりけん□ ○徒 卯花
をおのが月夜とおもひけん□
は□係辞らん□結辞 わしたの原ハ□紅葉しぬらん□ ○も□係辞ら□

八

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

も とらん
徒の結びらん
は とてん
も とてん
徒の結びてん
係辭第二段その や何
ぞ と現在のき
の と現在のき

ん（結辭）　ふる白雪もそらに消ゆらん　○徒　色のかぎりを見するなるらん

は（係辭）てん（結辭）　うすき袖にも波ハよせてん　○も（係辭）てん（結辭）虎ふす野べに身をもなけてん　○徒　岩のかけみち蹈ならしてん

係辭の第二段　そのや何および其結辭

ぞ（係辭）き（結辭現在）　古今集かくばかり惜しと思ふ夜をいたづらに寢て明すらん人さへぞうき　同のこりなく散ぞめでたきさくら花ありて世の中はてのうけれバ

の（係辭）き（結辭現在）　獨して物を思へバ秋の田のいなばのそよといふ人のなき

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

やと現在のき
何の結び現在のき
など
なに
なぞ
ぞと過去のし

や〔係辞〕き〔結辞現在〕　後撰集「つゆばかりぬるらん袖のかわかぬ
ハ君が思ひのほどやすくなき」　千載集「おもふこと千枝
にやしげきよぶこ鳥しの田の森のかたになくなり
何〔係辞など なにの類〕き〔結辞現在〕　古今集「瀧つ瀬のなかにもよどハあり
てふをなど我が戀のふちせともなき」　拾遺集「石見潟な
にかハつらきうらからハ恨みがてらに來ても見よかし
古今集「人しれぬ思ひやなぞもわしがきのまぢかけれ
ども逢ふよしのなき」
ぞ〔係辞〕し〔結辞過去〕　後撰集「なるとよりさし出されし舟よりも
我ぞよるべもなき心ちせし」　同「みどりなるひとつ草と
ぞ春ハ見し秋ハいろ〳〵の花にぞありける

一〇

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

やと過去の一□

何の結び過去の一□

や□（係辭）し□（結辭過去）　後撰集「とふことの秋しも稀に聞ゆるはかりにや□我を人のためし□」後拾遺「いはぬ間をつゝみしほどに口かしの色にや□見えし□山ぶきの花

何（係辭なに いづれの類）し□（結辭過去）　古今集「何□人か來てぬきかけし□藤袴くる秋ごとに野べをにほはす　同「花よりも人こそあだに成にけれいづれをさきに戀んとか見し□

正誤　第十二卷六六頁一行とノ右傍‖ハ誤入ナリ除クベシ○同六七頁三行細注或ハしと結びトアルとノ右傍‖ハしノ右傍ニ附スベシ○第十四卷五七頁八行「かれ」ノかハなノ誤○同五九頁十行なりハありノ誤

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○婦人病の元因（其二）

長谷川泰

偖て孃樣方が精神を過度に勞働なされて、學問上の事を大層御勉强になります、昔しの學問は之を習へば宜しい譯で、道理上の學問で無いから、考へ即ち思慮の點には頓着はいらなかつた、當今はソウでは無い、諳記法の樣な事は昔しでは無い事も當今では總ての事諳記しなければならぬので、實に少女の智識腦力を損害する事は甚だしき事で有ります、即ち神經系統等の發育は過度で有りまして身體の筋肉の働きと並行しません、ケ樣なる所の敎育の方法は如何なる結果を來たすで有りませうか、實に身體の衰弱を來たし、神經質の過敏常にエラ／＼すると云ふ樣になります、ソレで無くも女は鋭敏な性質で有る、然るに其上神經系統の發育が盛んなれば身體の衰弱は甚敷もので有ります、其病氣には色々有りますが殊に恐る可きは子宮病が發するのです、是は實に不容易の結果を來たす其結果が原因となり原因が結果と成ると云ふ樣なものです、其故に當今の有樣に於て智識の發育のみに注目して身體の發育を抛擲し構はないと云ふ樣な事なれば、學問が出きても斯る孃樣方は後ちに一家を立る樣になつても、迚も十分なる家事を治め或は家庭の敎育其外子供の世話とか實に多事の世の中で有りますから毎でも風を引くとか

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

毎も寸白とか半分は寢て居る樣な事ではなりません、今日御來會の貴婦人淑女に於ては生計上の御心配抔は有りますまいから關係は無いが、是より先き世の中が多事になりますから、今から育てる所の孃樣方は是迄の樣な敎育の仕方なれば學問が出きて一家の事を治める丈けの材料は備へ居るが、如何にせん身躰の虛弱なる所より之を利用する事は出きない、一家の婦人內務大臣たる行政を十分に行ふ事は出きない樣にならうと思ひ升近來の現況を考へれば、此點に於て最も甚敷、當今男子は頻りに身躰の運動を致します尤私立小學校抔は屋敷一杯に造ッて有るから河岸に出て運動すると云ふ樣な有樣です、從來は甚だ不適當の建築法でアナタ方も御承知で有りませうが私も重もなる學校は大抵驗査して存じて居るが、日本橋區內の常磐學校などは如何で有るか、空氣は惡るい、運動場はサッパリ無い、ソレでも男子は幾分の運動も致しませうが少女に於ては精神のみを勞して身躰の運動を度外にすると云ふは如何なる事で有りませうか、五六年前の事で有るが私は斯う云ふ事を申しました、東京府下の小學校生徒は饑饉歲の如くで有る、皆菜色をして居ります、后ち此子供が親となり其子が又親となり百年の後ちには東京府下に面白い鳥羽繪が出き樣實に恐る可きでは無いかと當局者に尋ねた、ソウした處が何に貴

一四

公が云ふ位の事は百も承知だがソレは中々行はれ無い、何うしてと尋ねたら何うも東京府下に於ての父兄ハ左無きだに公立小學校を忌む、ソレに今單簡なる躰操の事でもすれば徴兵の下稽古を學校でするからソンナ處に遣る事ハ出きんと云ふ樣な譯で止むを得ず躰育をする事は出き無いと云ハれました、今や風潮一變して小學校の生徒でも散歩するが如何にせん、右等の少女に於てハ實に少しも未だ運動が無い樣です、男生徒なれバ飛鳥山に運動するとか兜を冠ッて調練の眞似をするとか云ふが女生徒の景況を見れバ右等の事ハ少しも有りません、若しも斯う云ふ有樣で抛擲して置たなれバ後來果して如何なる事に立至りませうか、實に慨歎に堪へん事で有り升。

斯の如き事を、御婦人の前で申して甚だ無禮の樣で有りますが、世の中は陰陽合して成立ち居るが、殊に後來人種の改良とか云ふには其力重に御婦人方に有る事と存じます、何んとなれバ世の中の通則で良田には良き作物が出き、瘠田には決してロクな作物が出きるものでは有りません、是は世の常です、人間でも其通り、强健なる人でなければ强健なる子供を生む事は出きません、若しも只今の樣な有樣で過ぎ去ッたなれバ我日本帝國ハ實に亡國の元と考へる、過激の樣だが私の申す事は自分ハ誤ッて居らんと信じて居る

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

何卒本會に於ては現に貴婦人淑女三百余名も會員の有ると云ふ事ですから、冀はくハ此第二點に於て十分の御注意を願ひ度ひと考へまする、若しも諸君にして右の事に注意すれば、其他の會員も奮ッて精神の發育と身躰の發育とを平均する樣に上の好む所下之に從ふと云ふからアナタ方が御注意になれば、府下一般に於ては忽ち變化を來たし只今の事は咄嗟の間に行はるゝ事と思ひます、特に此點に於ては御來會諸君に御推察を願ひ度ひと思ひ升、

偖其第三の原因は衣服の不適當で有ります、當今は先き程も申す通り文明開化の風潮とでも申しませうか、大洪水汎濫とも云ふ可き有樣で、滔々として底止する處を知らん位です、昨年一昨年來の有樣では、東京府下に於て貴婦人淑女が今後和服などを衣る人は恐らく鉦太皷で搜さなければならぬ樣に成りはしないかと思ふ程です、今日私は本會には始めて出席して御來會諸君の景况を見た所が私が想像したのとは違つて却て日本服を衣た人の方が多い樣に思ひますが、是は、今日の會が斯の如き有樣で平時の御常會には矢張洋服を召した人が多いのか始めてゞすから能く分りませんが、私の第三衣服の不適當と云ふ事に就て申したいのは、實に文明開化の風潮は滔々底止する處を知らずと云ふ有

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

様ですが、一躰近來の如く婦人が悉く洋服を召さるゝと云ふ様になれば、何んな結果に成らうかと思ふのです、洋服を衣るのは詰り形容の美麗日本服なればお尻が大きく見えるとか、洋服は大層美しく見えるとか、形容の美麗と不足を補ふ所からの風潮では有りましやうが、亞米利加人が申します先方の者も時と摸様で衣服は替りませうが日本の婦人が衣る様な物を先方の人の衣ないのは云迄も無く、若し倫敦巴里の眞中で日本服を衣たならば大層奇妙に思ッて珍重するかは知れない、一般人の衣て居る所と違ふから奇異の思ひをするで有りませう、併し世の中の風潮は面白ものて吾々も風潮に壓せられてカッパ天窓よなつたのだが、東京府下の紳士などでも未だ隨分把手の付いて居る人も有りますが、袴羽織でも衣て居れば馬鹿の様です、殊に役所にでも出る人が日本服なれば人にも輕ろしめられ自らも甚だ頓馬の様に思ひます、時の風潮とは隨分可笑な事で有る一般の風俗をしない時は人間でない様に思はるゝが既に亞米利加人は此婦人の衣服の事に就て大いに歎息します、實に何うも我が亞米利加婦人の衣服は身躰に適して居らない吾々亞米利加婦人は形容の美麗と身躰の欠點を補ふ爲めに此究屈なる衣物を着て居る實に其弊害は恐る可きもので有る、其弊害は如何にと云ふに先き程申す通り子宮病を發すの

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

で有ります、ナゼ子宮病を發すかと云ふに是は一躰の呼吸の事に就て一寸御示し申さなければならぬ事が有る、

御同樣生きて居るには、呼吸は勿論緊要のもので、呼吸の理屈を長々敷申せば生理學講釋の樣だから申しませんが、一躰吾々が生活を營むには、色々の作用が有ッて、全身に血が廻る、若も少も血の廻らぬ時は死んで仕舞、呼吸して居るのも息を止れば死ぬ呼吸と云ふものは吾々が生命を保つに樞要にして一瞬時も欠く可からざる者で有ります、吸氣の時は酸素と云ふ空氣中の成分を取り呼氣の時は一旦用を爲して不用と成たものが出る、下等社會には布團蒸をして殺したと云樣な事がまゝ有るが此欠く可らざる呼吸の作用をして十分ならしめるには、如何んと云ふに第一我々の胸です、胸が自由に動かなければならぬので吸氣の時膨脹し呼氣の時收縮する此胸の運動は十分でなければならない、胸の下の部分が特に樞要です、即ち横膈膜の運動が自由自在でなければならないのです。

何んと、諸君洋服は如何の有樣です、斯の如き事を云はゞ今日洋服を衣て御臨席になつた御方に對して、私が無暗に惡く申すと思召ては甚だ困却致しますが、總て物は一利有れば一害が有る、利害相伴ふ者ですから、苟も宜しい物を御取りになるなれば從て其弊害を防

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

がなければならない、是は世の中の新事物皆其通りです、斯の如く滔々と文明に成に随て、扨此洋服ハ美麗の物で容貌を美くし、身躰の欠點を補ひ、婦人をして天女の如くならしめると云から、至極結構の事で有りますけれども、害が有る恐る可き弊害が伴ふて居ります、申す迄も無く、米の飯も食い過れば病氣に成りませう、甚しきは食い過て死ぬ事も有る、飲食ですから度を過ごせば健康を害するのみならず、生命を失ふから衣服も其通りです、何んな美麗な衣服でも、美麗に從て、其弊害ハ相添ひまする、ソレ故私は洋服を衣るのハ悪るいと云ふのでハ無い、文明の風潮に依て起る所の病源が有る、ソレに就てお話しをするので止むを得ず美麗なる洋服は如何なる弊害が有ると申ふすのですから、其思召で御聽を願ひます、アイツは和服を衣て來て婦人の洋服をケナス怪しかると思召すか知らぬが、其邊は偏に御熟慮を願ひ升。

亞米利加に「ヒラデルヒヤ」と申す大都府が有るさうで御坐います、其所に婦人病院が有ッて「トーマス」と云ふ教授が有ります、其教授が亞米利加人で有りながら、滿天地洋服で有る所に於て、(日本婦人などは無い所)其弊害を述べたる言葉に、婦人社會の衣服は徒らに身躰の美麗を是れ事とし、新調の衣服を着する其有様は、左ながら、副木を貼するが

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

如しと、副木とは手足の骨の折れたる時に骨のクッヽク迄動かさない様にする道具であります、病氣あれバ、仕方がないが、健康な婦人が、副木を着けるのは如何なる譯であらうか、實に其弊害たる甚しきもです、先き程も申した通り、呼吸の作用には、胸の運動殊に胸の下部の運動が、充分でなければならぬ、然るに今洋服を着ければ、横膈の擴張を妨げるので、其結果として、子宮病が發る、ナゼ子宮病が發るかなれバ、胸を締めるから、横膈が脇の方に擴張する事が出きず、多くは腹の下方に向つて、押すので、腸が上から押され其腸が子宮の方に向つて、チッペシまするのです、元子宮ハ自由に動くものなれバ、骨盤底の方に押し出され、或は位地を變じて、横になる樣な事を發します。」

加之洋服の爲めに、絞肝と申す病を發します、甲冑見た樣な、洋服で締るから、西洋の婦人は、肝臓が大層下たに出て二ッに分れ（尤も切れはしないが）一ッは上、一ッは下になります、我國では、數十年間洋服を衣た婦人も無いから、斯の如き病を實見する事も出きないが、夜となく、晝となく、洋服を衣たなら、絞肝も發しましよう、既に日本の小兒は附け紐の爲め胸を締めます故、胸の發育が惡るいと云ふ事で御座ります、然るに貴婦人淑女が好んで、甲冑の樣な、服を衣て肝臓を半分に分つと云ふ樣な事をするの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は、餘り、譽た事でもない、確か先々月頃の事と思ひました、某氏の妻君が急性の腹膜炎を發しました、腹が張つて隨分危險の病です、懇意の醫者の申すには、是は着つけない洋服を衣たから發したのである、幸に機會を失はずして治療しましたから全快しました、是れが拙醫の手に懸けるか、時機を失なつたあれば、死んだかも知れない、なんと、身躰の美麗を飾る洋服から涌き出る弊害は、恐る可きものでは、御座いませんか。洋服の爲めに胸を締め、子宮は位置を轉じ子宮病に罹る、子宮病ある者が婚姻すれば、種々雜多の病を釀す、好し生命を失ふに至らすとも、廢人同様になるの恐れがあります、三百人も婦人病人を入れて置く病院長トーマス氏が何うかして、婦人の洋服を廢める譯には往かぬものかと、歎息せしは、尤もの事であります。

何うしたものでありませうか、あちらの婦人が日本服を、着やうと申しましても、日本の男子が頭に把手を付た様なものでトテモ何はれまいから、仕方もありますまいが、何も求めて日本婦人社會をして、洋服社會に變ぜしめないでも宜からうと思ふのです、是は私の一己の考へで、實に美麗の洋服當今の文明の風潮の時節では洋服は止むを得ざるの有様でも有り、美麗にも相違ないが、弊害を如何にせん、衣ないなれば其弊害はない

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のです、日本服なれバ胸ハ十分に、膨脹が出きる、腸をして子宮の位地を變じ、病氣の原因を釀す樣な事は無い、左れバ斯の如き滔々たる文明の風潮ある處に來て、私の考の如く府下の貴婦人淑女をして、洋服を衣ない樣にと云ふのは一己の私見で、アノ氣違ハ何を云ふか位のものですから、行はれもまいが、今日御來會の貴婦人淑女は、私立大日本婦人衛生會の御會員で在せらるゝから、洋服を衣ても開化に伴ふ弊害の點ハ何卒御注意を仰き度いと、私は思ひます、身躰さへ美麗あらバ、病氣を發す樣な事ハ頓着は無い、病が子供に及んでも差支無いと云ふ樣な、考への御方ハ今日御臨席ハ無い筈で、申上る迄もないが、若しも下等社會の者なれバ、敎育も無く、道理も知らないから、頓着もあますまいが、諸君ハ學問上の道理其外色々の關係の事を御承知で殊に、健全無病でなければならぬと云ふ處から、私立大日本婦人衛生會も立ち、御盡力に成るので有りませう、否、ソレは亞米利加人ハソンな寐言を云ふかハ知れ無いが、日本帝國の女ハ、身體が違う、腹膜炎を起す樣の事ハ無い、又亞米利加人の樣に肝臟が裂けると云ふ樣な事は決して無いと、云はるゝか、ソレあれバ、仕方が無いが、其樣の事は諸君が云はるゝ筈も無いと思ひます、願くは洋服から起る處の子宮病の如き、腹膜炎の如き、斯く致したならバ、防

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ぐ事が出き様と云ふ方法を、講究して、世の中に示す様に、したならバ、單り本會の貴婦人淑女が弊害を免るゝのみならず、東京府下は勿論、他府縣にも利益を及ぼす事と思ひますから、吶辨を顧みず長〳〵しき鄙見を、述べた次第であります。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

經濟學

第四章　生產力

北濱漁士

富を生產すに必要なる、天然の貨物、勞力、及び財本の三素は、各々時と處と事情とによつて、其生產の度を異にする物である。

天然の貨物は一として、土地より生じないものはない。先づ室内を見れば、机、簞笥、火鉢、椅子、等あり、之らは皆山より掘出し、或は伐出したものである、木綿、絹、茶、珈琲、は畑より出で、牛乳と羅紗とは牧場に生長つ草より成れり、其他一切の物、一として土地より生長ないものはない、然るに同じ土地にても、時と處と事情とに依つて、其生產力に相違がある、見よ今日は牧場となりて牛羊を養ひ、畑となりて麥茶桑を生ずる、北海道の一地方も、少し以前までは、鹿や熊の棲家であつた、又今日にても、一反につき五石の米の獲れる田地もあれば、四石三石位より揚らぬ地面もあり、少しは出來ても、迚も肥代に埋らないから耕さないといふ土地もある、又勞力に於ても其通り、魯西亞人三人分の仕事は、英吉利人一人にて之を仕遂る、甲は三日を費して、纔に一圓の仕事より出來得ざるに、乙は一日にて二圓の仕事を、成遂る事もある、其他同じ千圓の財本に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ても、之を旨く用ゆると、下手に費すとによりては、其利益は大變違ふ、若しも今日蒸氣機關といふ、固定財本が無つたなれば、外に百倍の財本を費しても、迚も今日通りの鑛山や、運輸や、紡績の業をする事は出來ない。

ナゼ、此樣に、土地に豐瘠あり、職工に優劣あり、財本に利益の多少があるか。と問われた時には、實に困難な問題であつて、此答解を爲さんとおもへば、先づ地質學生理學、理學、化學、數學、器械學、其外宗教政治まで溯つて、眞理を極めた上でなくては解らない、之等は夫々其專門學の窮むべき處であつて、經濟學の與る所ではない、故に之より論ずる所の生産力といふ事も、決して右樣の原理に溯つて、探窮す丈けではなく、唯大仕掛けにすると、小仕掛にすると、或は分業の法、協力、合本の法に依ると、依らざるとに依つて、生産力に如何なる影響を及ぼすかといふ事を說のである。

土地　土地が豐饒であれば、土地の産物は澤山獲れるには相違ない、併ながら、富といふものは、産物の目方や容積ではなくて、其産物を他の貨物と交換する割合、即ち價をいふとであるから、いくら産物が澤山獲れても、其産物の價が多くなくては、富の生産が多ひとはいわれない、故に土地の生産とは、唯産物の獲れるといふ事のみでなく、其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

獲れた產物を、市場まで持行きて、貨幣と交換るとの容易なる事、即ち位置の良き事が必要である、假令ば茲に十反の田地ありて、一反につき四石の米を收獲たりとせよ、其當時米の價が一石、五圓五十錢なりとせば、丁度此田地は、二百二十圓の價ある米を產出したには相違ないが、イザ之を市場まで持行きて、賣らんとするとき、其運送費が一石に付、五十錢かゝるとすれば、締て二十圓、之を二百二十圓より差引きて、詰り二百圓丈の富を、此田地が生產したといふべき譯である、勿論眞の生產高は、地代、肥代、賃銀、等の諸入費も差引た上でなくては、勘定はできねども、兎に角土地の豐饒なる事と、其位置の良き事が、土地の生產を增す事は明かである、併し如何に土地が豐饒で、產物は澤山獲れ、運輸が便利で市場へ持出しても、之を買ふ人が無くは價を生ぜぬ、故に需要の多ひと少ひとに依つて、土地の生產も高くなり低くなる、嘗て英吉利にては、墺太利より羊の肉と毛とを輸入せし事なるが、毛は持運びに便利にして、肉は尤も困難であるから、英國にては肉の價は、毛よりも余程騰き事なれども、墺國にては、肉は頗と直段の廉きものであつた、然るに近來墺太利にて、金鑛の發見以來、人民が殖て肉の需要が增したから、價も騰り、夫故以前とは少しも變らない牧場であつても、富の生產

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は非常に增した、斯の如く、土地の生產は、啻に其產物のでき高のみならず、之を貨幣と交換る事の難易、即ち位置の良否、及び需要の多少によつて、影響を持つものである

勞力の生產力の多少

勞力　智識と勇氣とは、職工には欠べからざる性質なれども、人の性質は、人の面の如く異るものなるか故に、隨て勞力の生產の度も、亦大に多少がある、ブラッセー氏の著せる、工業及賃銀といへる書物の中、

英吉利國の職工は、他國と比れば、元來賃銀の騰ひ方なれども、橋を架けるとか、隧道を通すとか、鐵道を敷くとかいふ工事は、他國よりは、余程廉き入費で出來揚る、

職工監督費

と言れた、又職工に尤も大切なるは、德義心である、若し職工が不正直であれば、啻に惰る、仕事を粗末にする、器械を毀す、品物を盜む、等の直接の損害あるのみでなく、之を見張る爲には、監督人とか、或は其他之に始終氣を注る人を傭はねばならぬ、故に一日、一圓の職工廿人に、監督者一人を付けて、其監督者の日給が、一日二圓とすれば之を職工の頭わりにして、丁度一人に付、十錢だけ、勞力の生產を少くした譯である、若し此廿人の職工が、正直に勉强して、他人の監督を要さなかつたあれば、夫丈にても

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

財本生産力の多少

一日一圓十錢の日給を給して、傭主は反つて利益のあるとであらふ、其外、正直勤勉なるが爲に勢力の生産を増し、不正、怠惰、愚鈍、飲酒、等の爲め之を減ずる事は、睹易き事實である。

財本　財本は、之を豐饒なる土地に用ひ、効驗ある勞力に施せば、其生産の度の大なる事は、勿論の事であるが、土地と勞力との良し惡しに拘らず、財本の生産を大ならしむるものがある、即ち工業器械の發明、及び改良といふ事である、御覽なさひ、今日日本においても、一國を護るにも、物品を運輸するにも、鑛山にも、造幣にも、紡績にも、出版にも、悉く蒸滊機械を用ひておるとであるが、若し此機械がなかつたあれば、如何であろふ、假令ひ今日に、百倍千倍の財本を用ひても、迚も今日丈の富を生産するとは出來ない。

近來歐洲諸國にても耕作上器械の進歩尤も著しく、夫が爲め以前より少き財本にて、以前より大なる生産を得るとは驚べき程である、併し農夫は言ふ、器械が良なつたから、僅の財本で多く收れる様になつたけれども、手に入る貨幣は同じ事じや。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

此小言は至極尤もである、若しも生産が多なれば、地主は地代を騰るから、差引き農夫の利益は同じとである、利益が同じければとて、生産が殖ないのではない、殖た生産を農夫が獨り占るとの出來ない、理由があるからである、此事は富の分配といふ章で、詳くお話を致す事として。

サテ此次は、富の生産を增すにつき、大切なる法を說明すべき時機に到著した、そは何であるか、分業の法である、協同の法である。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○百人一首講義

第七回

鈴木弘恭講

坂上是則

是則は。田村丸四代の孫好蔭の子であります。作者部類に。加賀守に任ぜられ。延喜朱雀の二朝に仕へたるよし見たり。是則ハはやくより才學の聞えありて。御書所預となり。又大内記にもなられたる人にて。蹴鞠の藝にも長じたるよしが物に見てあります。

朝ぼらけ有明の月とみるまでによし野のさとにふれるしらゆき

此歌は。古今集の冬部に載せて。やまとの國にまかれるときに雪のふりけるを見てよめる。とありますから。吉野の里の實景を見て詠じたる歌と見えます○朝ぼらけは。萬葉集などに朝旦朝朗の文字をかきて。あさほからわけの義ゝ。即ち夜のホンノりと明たるばかりの時をいふゝ○有明の月は。滿月後の月ゝ。滿月は日のくるゝと出で。夜の明る頃さし入るゝ。夫より漸々に夜毎に四五分ッヽ後れて出る故に。翌朝になりて暫時影の西天に殘れるを有明月といふゝ。さて有明月は。夜明てなほ殘れる月影にて。其の光り白けて見ゆれば。かく白雪を月の光りの殘りたるかと疑ひたるゝ。○八雲御

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

抄に。此歌を評して雪のうすくふれる故に。野山の草木のすがたもかはらぬを月かとみるなり。有明の月といへるによくかなへり。心をつけてみるべき歌なりとあります○までには。までにはものゝ度數をさす詞にて。よりと云に對せる言也。故に何より何までなどつねにもいふ也。俗にグラ井といふ意にもかよへり。には副詞のみといひて。別に意なし。まだきになくにばかりにさへになどいふにと同じ○一首の意は。あさぼらけでよくわからぬが。有明月の光りが野山に映ずるぐらゐに眞白に見えたのは月の光りではなくて。うす雪の降りたるのでアルワイ。さても能き景色であると也○語格は。一段切れの歌にて。徒の結ひであります。かやうに體言にて結びたるは。詞を省きたる格也。故に之を解するときは。ナリと云ふ詞を添へて見るべし。上にある。しるもしらぬもあふさかの關。下にある。あらはれわたる瀬々のあじろ木。雲ゐにまがふ沖つ白浪。きり立のぼる秋の夕霧。の類も皆同格であります。

春道列樹

列樹は。新名宿禰の子あり。作者部類に延喜二十年任壹岐守于時文章生とあり。八雲御抄には。新名宿禰の一男云云。從五位下雅樂頭とあります。また或書には。文章博士と

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

も見えたり。詠歌に秀でたるのみならず。博學の人なりしと見えました。

山川に風のかけたるしがらみハながれもあへぬもみぢなりけり

此歌ハ。古今集秋下に載せて。しがの山越にてよめる。とあります。しがハ。近江の滋賀郡也。また志賀ともかけり。袖中抄に。志賀山越とハ。北白河の瀧のかたはらよりのぼりて。如意が嵩越に志賀へ出る道なり。とあります○しがらみハ。柵の字をかけり。シグカラミの約言也。河の激流なる所に。杭をうちて竹或ハ柴木などを重くからみ付るなり。是ハ水勢の爲に岸堤などの崩るゝを防ぐため也。風のかけたるしがらみとハ人造の柵の如く。風が落葉を吹散らしたるを。水が押し流して一所に集りたるが柵の如くなればしかいふ也○ながれもあへぬハ。流合せぬ也。此のあへぬといふ言を。先輩はよく解ぬゆゑに。初學の者ハ確と心得ないのです。尤も別に委しく云ずとも大低わかるやうな詞であるゆゑならんが。今語學に志ある人の爲に委しくいふべし。さてあへぬハ。合せぬの約言也。又流ものもハ。指辭のもに非ずして。歎辭のも也。故に直譯すれバ。ナガレ。マア。アハセヌ。といふ義也。なほ委しく云ハゞ。水ハ流るゝけれどもその水と共に流れ合せずして。殘り止りてあると云ふ意也。かく解くときハ。あへぬといふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

言はよく知らるべし。秋にはあへずうつろひにけり。散りあへぬ枝にあらし吹くなり。などいふ歌をよく味ふべし。又定家卿の歌に。秋とだに吹あへぬ風に色かはる生田の森の露の下草。といふあり。此歌も味ふべし○なりけりは。俗にデアルワイといふと之。此の辭は。物を判決する意之。然るに初學の輩は。たゞなりといふべき所に。なりけりといふは甚非之。古人の歌をよく味ひて知るべし。必ず上に疑ひの意がありて。下をなりけりと結ぶは。自から判決して。自得して。感歎したる所に用ゐる格之○一首の意は。山河に風の作りて掛けたしがらみは本眞の柵かと思へば。さうではなくて。流れあはせないである紅葉であるワイと之○語格は。一段切れの徒の結びの格にてなりけりで結びました。

紀友則

友則は。有友の子之。八雲御抄に。孝元天皇の皇子彦太忍信命より十九代の苗裔也。紀本道の孫。宮内少輔有朋の子也。貫之の從弟也。とありますが。一本には朋を友に作りてあれば。有友の方然るべからん。古今集撰者の一人にて。古今の序に大内記とあり。醍醐天皇に仕へまつりて、詠歌に長じたる人であります。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

久かたの光のどけき春の日にしづごゝろなく花のちるらむ

此歌ハ。古今集の春下に載せて。詞書に櫻の花のちるをよめるとあり○久かたのハ。冠詞之。冠詞にハすべて別に意なし。さて久かたハ天といふへかゝる冠詞なれば天の縁にて天に屬する物にハ空日月星雲などまでも冠らせて用ゐる例之。此所ハ日といふへかけて久かたの日の光りのどけきといふべきなれども。下に春の日とあれば。詞を省きて久かたの光りとは云ふあり。さて此の久かたの義ハさまざまの説あれども。何れも取に足らず。余ハ黒川翁の説に從へり。黒川眞頼翁云。ひさかたハ。瓠葛の略言へ。瓠の成る草のと之。瓠葛ハ青きもの故に青といふへかけたる之。アメ(天)ハアヲミエの約言なれば。此の詞を冠らせて。ヒサカタノアメとハいふなりといはれたり。○しづごゝろハ。鎭心之。心の騒かぬをしづごゝろといふ之○一首の意ハ。これほど太陽の光りも長閑なる春の日であるに。ナゼ鎭まれる心が無くて櫻の花があのやうにいそがしげにザワザワ散るであらうと歎息したる之○語格ハ。一段切れの歌にて。花のといふのが指辭にてらむで結びたり。此ののハがに通ふのにて。花のちるらむハ。花がちるらむといふのと同じことゝで。あります

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

藤原興風

興風は。道成の子ぢや。八雲御抄に濱成の孫。相模掾道成の子也。正六位下治部少丞とあり。作者部類には。興風は河内大掾。治部少輔とあり。また藤原系譜には。下野守院の藤太と號すとあり。拾芥抄には。下總權大掾延喜十一年。相模掾從五位下とありて。醍醐天皇の朝の人でありまする。

たれをかもしる人にせむ高砂の松もむかしの友ならなくに

此歌は。古今集雜上に載せて。題知らずとありますが。述懷の歌のさまぢや○たれをかもは。誰をかマア之○しる人にせむは。知己の人と爲やうぢや○高砂は。播磨の地名にて松の名所ぢや○ならなくには。ニアヲヌニぢや。ならはにあらの約言ぢや。なくにはぬにの延言ぢや。俗にデハナイノニといふことぢや○一首の意は。誰をかマヤ余を知れる人と爲やう。今はたれも余を知る人は一人もない。高砂の松は昔よりの松にて。今も變らないである。草木は無情の物なれば。余が友ではないのにして。見ると世の中ははかないものヂヤ。余は年老て生殘りてあるが。今は知己の人は無くなりて心細いとてあると無常の世の中を觀念したるぢや○語格は。一段切れの歌にて。誰をかものかが指辭にて。せむのむに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て結び。此の二の句にてきれたり。さて友ならなくにといふ末の句より。又上へ打返して解する格であります。

紀貫之

貫之ハ。武内宿禰の裔にして。望之の子(或作望行)なり。古今集撰者の第一ゝ。古今集の序に。御書所預とあり。童名を阿古久曽といふ。陽成天皇の元慶八甲辰年に生れ。朱雀天皇の天慶九丙午年五月十六日。六十三歳にて卒れし人ゝ。初め御書所預となり。二十二歳の時。醍醐天皇の勅命を奉して。古今和歌集二十巻を撰まれたるなり。後に玄蕃頭。土佐守。木工頭などを經て。從四位下に叙せられ。博學にして歌文に長じ。能書を以て世に知られしが。其の文章に於てハ實に古今獨歩の俊才であります。袋草子の註に。四條大納言公任卿が。六條宮具平親王に語られて云く。貫之ハ歌仙なり。宮云。人丸にハ及ぶべからず。納言云。しかるべからずと。こゝに秀歌十首。後日に合せらるゝよ。八首人丸勝。一首貫之勝。此の人はいさの歌ハ持にありたりとあります。

人はいさ心もしらずふるさとは花ぞむかしの香ににほひける

此の歌ハ。古今集春上に載せて。詞書に。はつせにまうづるとにやとりける人の家に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ひさしくやどらで。ほどへて後にいたれりけれバ。かの家のあるじ。かくさだかにな
んやどりハある。といひいだして侍りけれバ。そこにたてりける梅の花を折りてよめ
る。とあります。貫之長谷の宿坊に年月へて行きけるに。久しく音づれねバ坊の主人
の心を疑ひてよめる也○いさハ。いざと濁るべからず。清みてよむべし。萬葉集に。
不知とかきてイサとよませたるより。シラズの義也といふ説もあれども。眞淵翁がい
ハれたるが如く。いなといさと同言也。即ちなとさとハ往來言あれバ也。さていなハ
漢文の否の字に當たれバ。それより移して。義訓にて不知の文字をもイサとよませた
る也。因に云。古今集遠鏡に。人ハいさを。知ラヌの意に説かれたるハ非也。古今集
打聽に。いざもいさも同言のやうにいハれたるも又非也○ふるさととハ。實ハ一度住
みたりし所を年月へて後立かへりて云ふ名なれども。此所ハ貫之が屢行し宿に久しく
音信ずして。さてこたび行きたれバ。故郷とハいハれし也○一首の意ハ。此の宿の人
ハ昔の如くなりや否や。其の心ハ知らないが。此のふるさとの梅の花ハ昔のまゝの香
をりに咲匂ひてあるチヤと也○語格ハ。一段切れの歌にて花ぞのぞが指辭にて。匂ひ
けるのけるにて結びたる格であります。

三八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

烟筒の風の事

○家内理學（第十二回）

第十章　空氣の流動並に烟出の事

茲に蠟燭を點し見るに、其火縦に燃え上り火によりて温ためられたる瓦斯及び周邊の熱したる空氣などは、均しく亦た縦に燃え上るとなるが、彼の西洋風のストーブなどにて火の燃ゆる所ろ、及び空氣の流れ込みつゝ而も上に登りつゝ行く工合は、恰かも之と同じき理屈に由るものなり、火に熱せられたる空氣は何故に上に登るやと云ふに、此は別義あるにあらず、熱せられたる空氣は膨脹して稀薄となり、輕ろやかとなりたれば、上に浮むとにて、云はゞ地球の引力によりて下へ引はらるゝの度合の減じ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

風の流れ入り强弱の事

たると周邊の濃厚なる空氣に壓迫せらるゝとより、扨てば下に行くとは勿論得ならずして、則はち上に昇り行くものなり。何れにもせよ、既に熱せられたる空氣上に登るゆへに、其の登り去りたる跡を充さんとて更らに濃ゆき空氣が出で來るところ此の空氣も亦た熱して上に登り、更らに又た新らしき空氣出で來りて之れも亦た熱して上に登る、如此く既に温たまりたるものが上に行き尚は冷やかなるものが代り來り順環交代して、煙はいつも煙出しより逃れ。風はいつもストーブの口より入り來るもの也。

此故に入り來る所ろの風の强弱多少は、即はち流れ行く

所ろの煙の強弱多少に由りて、異なるとゆへ、言を換へて言へば煙出しの内の流れと、煙出しの外の空氣の有様との相違によりて、其の強弱多少はあるもの也、故に煙出しの内を流れゆく煙のいよ〳〵熱きほどいよ〳〵高く登るほど、又いよ〳〵多く登るほど、流れ込む所ろの風はいよ〳〵強く、いよ〳〵多きとあり。故に煙出しの丈高く巾廣くして、彼の煙を登らするの高く且つ多く、隨つて其の煙の熱を失はしめざるようの工夫も備はり居るときには、煙の立去ると甚はだ多きを以て、亦其の割りに風の流れ入るとも甚はだ多きとあり、之を一般の通則とす、然し、此外に尚はいろ〳〵の事情ありて、煙の出工合と、風の入

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

工合とを増減するなり、例せば烟出しの筒の内側もし粗らくして、磨擦すると多ければ、烟の登り行くと亦随つて遅く、附ては風の流れ入るとも少なかるべし、又た烟筒の出口の細くなると、又は其入口の狭くなるは宜しけれども、万一其の外の部分に於て烟筒の太とさが細く狭くなるときは烟の流れ悪しくなりて、随つて風の入り悪しくなるべし、（煙筒の出口細くなれば煙の出工合急になり、勢ひ強くなりて、反つて風に吹壓さへられざるの利益あり、煙筒の入口狭くなれば流れ込む風の勢ひ甚はだ強くして火を燃やすと活潑なるべし、○又た煙筒内の煙が熱ければ、熱きほど下より流れ込む風の入り宜ろしと、云ふ

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

は眞とに當然の理合にて、蓋し烟いよ〳〵熱きほど稀薄にして且つ登り行くとの早ければ則ち下より流れ込む風のいよ〳〵多き譯合あるなり、夫故へ烟筒內の烟を成るべく冷まさゞるようにすると亦一ツの心得なるべし、之を以て屋根より上へ出る烟筒には、下がこひ樣の者をして特更ら其の冷却するを防ぐとあり、斯すれば風の入りよろしと云ふも必竟前の道理あるによるなり○要するに上に流れ行く烟の多きほど、強きほど速かなるほどに、下より流れ入る風いよ〳〵多く、いよ〳〵強く、又たいよ〳〵速かなるべく、而して流れ入る風のいよ〳〵強く多く、且つ速かなるほどに其の薪の燃ゆるとの速かな

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

風が烟の出るを止る事

るものゆへ、此の關係は兼て能く心得置くべきもの也。

左れば先づ烟筒の出口より烟をして自由に立ち登らしむると肝腎なるに、若し烟筒の突き出でたる近邊に高き樹木あるか、若くは屋根の工合風を追反すようになり居るときは、之によりて烟筒の出口に蓋をするようの鹽梅となりて、烟の出工合いたつて宜しからず、先づ入口より流れ込む風を止むるのみか、一旦立昇りたる烟をも後もどりさせて部屋中をけむたくすることあるなり、故にいろ〳〵の工夫を運らし烟筒の頂きに風よけを着く。

濕りたる煙筒の事

尚又造り立ての烟筒の如く其瓦なり煉石瓦なりの濕り居るものは、筒内を立ち昇る烟の温氣を吸ひ込みて直ち

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

北側の煙筒の事

に之は冷却せしむるにより煙は之が爲めに收縮し其の昇り行くと遲滯すべし、然るに若し下に於て火を燒くと前の如くならば、其の煙必らず滯うりて後がへりすべし、之れ初めにも申せし如く、煙いよ／＼熱ければ熱きほど能く立ち昇ると云ひたるの反對にて、其の冷却せらるゝものの多きによりて其の昇るとも亦た遲くなりし譯なり、然し此の煙筒暫らくして、全く乾き且つ煤と云へる不導熱躰が其の內面に多く附屬するに隨つて、之よりは最早煙を冷すとなきに至るべし。

右の理窟と同樣の理合にて、家の北側に立てたる煙筒は兎角煙の出工合宜しからぬものなり、之は冬は北風の多

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

煙筒內下向の流れの事

きゆへにも由れども、一つは亦た其の煙筒常に冷却して、隨つて煙を冷却するとも亦多く附ては其の煙の出工合あしく風の入工合宜しからずなるとならん。故に北側の煙筒には、下向の流れと云ふとあり、例へば夏に於て申さば北側に在る煙筒內の空氣は外の空氣よりも冷ややかとなりて、段々に下に沈むにより之を壓しつゝ其あとより來る所ろの空氣あり、之も亦た幾分か冷却せられて尙且つ段々に下に來り遂に北側の煙筒の上よりして室內に向つて下向の空氣の流れあるに至らん。此故に冬に於て若し北側に煙筒あれども、別段に火を燒かずありし折節、もし南側又は其外にて火を燒き煙多く立ち

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

昇らん時には、其の煙屋根の上に立引く間だに彼の下向の流に伴なはれて火を燒かざる煙筒の中に入り、遂に下向して室內に多少の煙を入るゝこともあるべし。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

四八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○小供のはなし

第十八回　正直なる小娘

今より百年程以前、アメリカと申しまする國に、大きな戰爭がありまして、其國の人民は英吉利と云ふ國と、敵對になりました、其戰爭の間には、色々と目覺ましひ働らきが多くありました、中に、玆にグリスチルドと云ふ一人の府知事は、或る時其の親類の許に行て居りましたる折柄、頓かに敵兵之を探り知りて、之を捕へんとて出で來ました、グリスチルドは最早致し方ないとは思ふたが、兼ねて其近邊の川に船を殘し置き萬一危急の塲合は之に乘つて、逃れんとの用意を致し置きたるとゆへ、一と先づ此迄で逃れんと覺悟して急ぎ飛び出でました、固より表てを通ることが出來ませんから、裏門を出で、籬根を破り突然後の庭に出でました、處が十二三の小き娘が布を晒らして居る所で、彼はビックリしました、然しよく見れば自分の從兄でしたから、先づ〳〵落附きました、グリスチルドさん何をなさるので左樣にお急ぎなさる乎と、問ひましたれば

チー、ヘッチーさんかへ、今ま兵隊が來て私しを搜がしますから逃げる所ろですが、私は早く河の處ろに行つて船に乘らなければモー迚も助かる道がありません、今其方

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

へ逃げる所ろですが、アナタは何卒表てに出て濱邊の方に行つてネ、兵隊が來たら甘く言つて下さい、詰度アナタに私しの事を聞くでせうからシタラ私しは街道の方へ逃げて車に乘つたと言つて下さい、スルト兵隊は彼方へ追掛けて行きますから其中に私は船に乘られます、ネどうぞ願ひます

よと言ひつゝ早く行にかゝれば、ヘッチーは急に召止め、

モシ〳〵アナタどうして其樣な事が言われませう、其は虚言でありませんか私は虚言を申しますとは出來ません、アナタは何故どこ〳〵へ行と云ふことを明白に仰しやつたのでせう、夫を聞かせて置て虚言を言へと敎へなさるのは無理で御座います。

それではヘッチーさんは私しを敵に賣しなさりたいので、私しが殺ろされてもお構ひなさらんのです乎、アヽアレ〳〵最う來ました馬の足音が聞へますよ、どうぞ兵隊に左樣言つて下さい願ひます、切度神さまはアナタを惠みなさいませうから。

虚言を吐いて神さまのお惠みが得られますものですか、デスがあなた私しは虚言は吐けませんが、然し兵隊にアナタの行先を言ハなくてならんと云ふとハありません、例令ひ殺されても申しませんから、アナタはどうぞ早く逃げて下さい。

ダがもう遲くなりました、モウだめデスモウ逃げられません、ア、何處か隱れる所ろはありませんか。

夫では早く〳〵此處へ來て此の布の下へお隱れなさい、其上へ布をかけますから而して私しは前の通り此の布を晒らして居りませうから。

モウ別に仕方が無いから左樣しませう。

斯くして、グリスヲルドは布の積かさねたる下に隱れたる所ろ、早や既に騎馬兵一隊追かけ來り、道を沿ふて走り過ぎんとしたるが中なる士官らしき一人ヘッチーを見て突然馬を留め、聲高く召かけて問ふやう、

アナタは此の道を逃げて往つた男を御覽なすつた乎。

ヘッチーは何んと答へました、知らんと言つて虛言を吐いたでせうか、又はグリスヲルドが其の目の前にあるを告げたでせうか、否エ〳〵たゞ〳〵其の問ゐるゝ丈けは正直なる答へをしました、ヘッチーは臆せず答へますのに、

ハイ見ました。

そうですか、何處へ逃げました。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

私は其の迯ぐる道を言ふまいと約束しました。

然しアナタは其を言わなくてはなりません、言わないと爲になりませんよ。

イヽエ申しません私しは約束を守らなければなりません。

此時、其の隊中の一騎出で來りて「モシ士官私しが問ふて見ませうお任せなさい」と言ひつゝ出で來りたるが、更らに問ひかくるようは、

アナタはヘッチー、マルビンと仰しやるお兒でありません乎。

左樣で御座います。

夫では今ま迯げた男と云ふはアナタの從兄でせう。

左樣で御座います。

そうでせう、私等は彼方に一寸話しを爲なければならぬことがあるのですが、一躰彼の方が此處に居られた時にアナタに何んと言われました乎。

命ちを助かる爲めに迯なければ成らんと、仰しやいました。左樣〳〵、眞にそうでせう、夫は本當です、デスがどうか遠く逃げられなかつたろうと思ひますよ、何ですか其の時彼の方は何處に身を逃れようとしてお出なさいましたのですか。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

從兄の申しますには河の邊に船を置てあるから其處へ逃げやうと思ふがお前は兵隊に出會つて私しは街道の方へ行つたと言ふて呉へと申しました。

さうですかヘッチーさん、アナタは實に善いお兒です、アナタは實に眞とを仰しやるです定めしアナタは虚言は吐かれませんと仰やつたでせうが、其時彼の方は何んと言われました乎。

申しますには夫ではお前は私を敵に貢して私しを殺ろさせようとするのだらうと、

ソコデあなたは大方仰しやつたでせうたとへアナタは其が爲めに殺ろされても決して申しませんと、そう仰しやつたでせう。

ハイさうですと（云ふや否や兩眼よりハラ〳〵と涙だを落したり）。

實に大胆な語ばです、スルト大方彼の方はアナタにお禮を言つて、而して出來る丈け早く此の道を走しつて行たでせう。

私しはどの道へ逃げたと云ふとを申すまいと約束しましたから夫は申されません。

ヲー左樣でした〳〵全く私しが忘れたのです、何程アナタの事ですから夫はどうしても仰しやいますます、然しどうかそれでは彼の方が言ふた一番最後の語ば丈けを話

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して下さい、而したらもう別に決して問ひませんから其の一番後に言ふた語ば丈け
を教へて下さい。
申しますには「モウ別に仕方がないからさうしませう」と斯く述べ去つてヘッチーは
聲を高く出して泣いたりける、然るに兵隊はヨシ〳〵夫にて全く相分つたり、此の道を
行しに相違なしと合點して最早二言と言はず其儘に走せ行いたり。
然るにグリスヲルドは兼ねて船に殘し置く二人の船頭と、約束して若し何事か危難ある
ときゝは彼の親類の窓より合圖を出すべし、晝ならば白きハンカチを出して振るべし、
夜ならばランプを出して見すべし、夫迄は河の邊の木かげに隠れて居て若し合圖を見た
らば出かけて救ひの用意を為し呉れよと、申せしとゆへ彼のグリスヲルドが親類の家を
飛び出ると同時に家の內にては窓よりハンカチを出して例の合圖を為せしにより船頭二
人は心得て船を沖に出せり、左れば兵隊は河邊に至りしとき遥かに之を見船中に二人あ
るを見て、グリスヲルドはもれや逃れたり最早致し方なしと斷念して引かへしたりと云
へり、必竟ヘッチー女の正直なる剛膽によりて助かりしとゆへ、グリスヲルドは其後之
を紀念せんとて己が娘にヘッチーの名を附し終生其の恩を覺へしと云ふ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○育兒心得　（第十五回）

船越鼎太郎講

第二章　孩兒の事

食物

問。齒牙の發生ると食物との關係に付き承り度候。

答。六七ヶ月の頃までハ全く乳汁のみを與へ、此頃に至り門齒の生へたるときハ母乳の外少しつゝ人工の流動性食物を飲ましめ、十二ヶ月より十五ヶ月を經れハ第一白齒を生ずべし、此時に至らバ容易に齟嚼くへき食物を與へ、十八ヶ月程經て犬齒の發生るに至らば消化れ易き樣調理したる肉類の薄片を少しづゝ用ひらるへく候。三十ヶ月より三十六ヶ月を經て第二白齒を生ずるに至ら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ば彌固形食物の量を増し、五六年を經て第三臼歯を生ずるに至らば粗大人と同様の食餌を與へらるべく候。

問。孩兒何ヶ月位に至らば斷乳して宜きものに候や。

答。實母、健康ならざるか、妊娠するか、乳汁不足なる等の事情あるにあらざれば六七ヶ月間は母乳のみにて必ず養育せらるべし。此頃に至らば少しづゝ牛乳其他人工の流動性食物を兼ね用ひ他の滋養物に習慣さしむべし。漸く牛乳及人工の食物に慣るに従て母乳を減し他の滋養物を増すべし。斯くして既に上下各四枚の門歯を發生し第一臼歯を生ずる頃即ち十ヶ月若くは十二ヶ月に至りて全く母乳を離すべし。斷乳の後聊にても孩子の身體に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

異常あるか或ハ羸痩たる徴あらバ斷乳を見合らるべし。又孩子に犬齒第二臼齒若くハ第三臼齒の發生たるにも關らず哺乳ましむるハ宜しきとに之れなく候。

問。斷乳のとに付き何にか心得置くべきと之れあり候ハヾ承り度存候。

答。乳兒に哺乳せしむる間ハ其兒强健にして肥滿たるもの斷乳の後薄弱なりて羸痩もの多く之れあり、或ハ腺病質と申して頸圍に瘰癧を生じ或ハ眼病耳漏を發し或ハ俗に胎毒抔と稱して身體諸部に發疹を生ずるとあり。斯くの如き體質に陷る時ハ種々の危險なる疾病を患ひ易きものに候。若し幸に成長して少壯の年齡に至るも肺

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

病に罹り女子ハ子宮病を起す等の原因と相成るものに候。斷乳の後腺病質に陷るものハ殊更に本邦の孩兒に多き様相見へ候。之れ全く斷乳の後孩兒を養育するの法方甚た不完全なるより其榮養を害するに由ると存候。乳兒の養育法の如きハ既に歐米に定規之れあり此定規ハ本邦にも直に適合る故にや種々の育兒書、衞生書、雜誌等にも相見へ候得共、斷乳の後孩兒を養育する法方の如きハ餘り本邦諸先哲の妙案をも見ざる所にして實に嘆かはしきとに御座候。

問。斷乳をなさんとする時にハ如何なる食物を與へて宜きものに候や。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

答。生牛乳、温めたる牛乳、コンデンスミルク、牛乳に肉羹汁を混じたるもの、或ハ寒晒粉を練りて牛乳を混じたるもの、水飴の如きものを與へらるべし。其外講義錄第三卷第四卷に記載之れある人工食料を用ひられて宜きとと存候。

問。牛乳ハ小兒の食物として如何なるものに候や。

答。牛乳ハ滋養に富み消化し易く無害安全の食品にして孩兒に欠く可らざる者なれば孩兒を最も健康に養育せんとせらるゝには必ず四五才に至るまでは充分に之れを與へて育てらるべく候。乳汁ハ身體を構成る諸成分を含み居るものにて斯くの如く完全致したる食物ハ他

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

に決して得らるべきものにあらず、小供ハ決して麵包のみ或ハ飯のみ或ハ肉のみにて生命を保存すると能はず、然れども乳汁のみ哺みて生命を保ち生長し強健にして肥滿るハ乳汁中に人類の身體を構成る諸成分を含むに由るものに候。

近來本邦に於ても牛乳の需用を大に增したれども未だ僅に都會中の一小部分にのみ限られ居り候。之れ習慣の容易に變へ難きと平素の食料廉價なるより見れハ其價の貴きに由るなるべし。然れども本邦在來の牛ハ牛乳を分泌すと小量なるを以て勢外國より種牛を高價にて購ハざるを得ず、之れ牛乳の貴き大原因に候はん。右の次第

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

に候へバ價貴きとて牛乳を販賣するものを責むるハ宜しからず、強て其價を廉からしむるにハ偽造の牛乳を販くに至るべし、偽造の牛乳ハ孩兒に害あるヿ勿論のヿに候。良乳を得んと欲せバ最も信用すべき牛乳販賣者に孩子を養育するに善良なる牛乳の必要なるを談し相當の價を拂ふヿを惜む可らず、高價の牛乳代を拂ふハ孩兒を疾病に陷れて拂ふ所の雜費に比較れハ遙に安直ヿに候。

一般の規則として幼兒にハ肉類を多量に與ふるハ宜しからぞ、牛乳を多量に用ひて之れより滋養を取る樣に致たさるべく候。

一晝夜に牛乳五六合も與へらるゝにハ生乳のみにてハ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

嫌惡になるものに候得ば、生乳、温牛乳の外或ハ麥湯に混じ或ハ粥に入れ或は布顛を製する等種々に致たして用ひらるべく候。

問。孩兒牛乳を飲むを嫌ふ時ハ如何致すべく候や。

答。牛乳を煮て之れに砂糖を加へ甘く致し、或ハ濃き麥煎と砂糖を加へて用ひらるべし。孩子之れに慣れたる時ハ漸く砂糖麥湯等の量を減じ、遂に全く牛乳のみを用ふる様に致すべく候。

問。夏日牛乳の腐敗するを防ぐには如何致すべく候や。

答。夏日牛乳の腐敗を防ぐには其牛乳を盛りたる器をば氷を入れたる壺の内に納め、窖若くは涼き土間に置か

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るべく候。之れに用ふる氷ハ氈子或ハフランネルの布に包むか或ハ鉅屑の中に蓄ひ涼き場所に置かるべく候。

問。卵ハ孩子の食物として如何なるものに候や。

答。鳥卵ハ甚た滋養分に富み消化れ易きのみならず貯ひ置くに便利にして調理の仕方も種々之れあり如何なる地にても之れを得らるゝとに候へバ孩子を養育するに大切なる食品に御座候。

問。肉類ハ孩子の食物として如何なるものに候や。

答。十八ヶ月位を經て犬齒の生る頃より少しつゝ與ひ候て宜きものに候。殊に魚肉の如きハ本邦にて汎く用ひ消化し易きものに候得者その淡きものハ孩子に與ひら

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

れて宜きことに候。魚肉を孩子に與ひらるゝ節ハ骨の之れなき樣注意せらるべく候。鳥肉牛肉羊肉の類を與ひらるゝ節ハ薄き肉片に切り、消化し易き樣注意致たさるべきことに候。

問。穀類ハ如何にして用ひ候て宜しかるべきや。

答。古來粥雜炊として一般に孩子を育ひ來り候。此等の食物ハ鳥卵若くハ肉類を菜として食する時ハ完全の食餌と相成るものに候。白粥に牛乳或ハ雞卵を投じ或ハ乳汁、乳酪、乾酪、及鷄卵等を加ひ所謂布顚を製して與ひらるゝハ宜きことと存候。雜炊も味噌汁若くハ漿油汁に鰹節の味を附て之れに飯を入るゝのみならず卵、切肉、擂肉の類 六四

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

を投れたるものを作るも宜きとに候。麵包、温飩、素麵、焼麩の如きも折々與ひて宜きものに候、又水飴ハ滋養分にも富み、澱粉質ハ食物を糖に化し、消化を助くるものなれば食事の後に與ひ或ハ牛乳肉藥汁と共に孩子に與へて大に結搆なるものに候。

問。豆類及野菜のとに付き承り度候。

答。豆類ハ其調理の仕方惡けれは害あるものに候へ共、豆腐及味噌の如きは滋養分に富み小兒に與ひられて宜きものに候、野菜はくたくしく申上ぐへき程に之れなく候得共、大根、蕪、人參、芋類の如きは孩子に食べさするも害なきものに候。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

問。孩兒の飲料には何にを用ふべきものに候や。

答。歐米の人は水を以て最上の飲料と致し候へ共、吾邦の如き衞生法の未だ充分に行き屆かず、飲用水の良非をも心得ざる以上は、一度沸騰したる湯を冷し或は微温湯となし與ひらるゝと最も宜きとと存候。沸騰ちたる湯を冷したる水は其中にある炭酸瓦斯を失ひ味よきものに之れなく候へバ麥煎若くは色の付きたるまての極めて薄き晩茶は害なきものに候。然れども茶若くは咖啡の濃煎は孩子の神經を過敏に致し或は食物の消化を害するものに候。

或飲酒家は孩子に酒類を與ひ、其酩酊するを見て喜ぶも

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

のあり、或ハ薄弱なる、孩子を健康に致さんとて酒類を與ふるものあり、之れ實に大害あることに御座候。

問。孩子の食物ハ毎日同樣のものを用ひ候て宜きや。

答。前章に於て赤子の食物ハ常に母乳のみに限らるべしと申上候へども、孩子には交々種々なるものを用ひらるべし、食品を變ゆるのみならず調理の仕方をも種々に致たし一樣なる食物に慣れざる樣にせらるべく候或る母親ハ私の孩子ハ何々の食物の外ハ決して他の食物ハ致さゞるとて高慢らしく述べらるゝことあり、之れは決して稱賛すべきことに之れなく全く其孩子の胃ハ一定の食物の外ハ消化し能はざるに立ち至りたるものにて、其罪

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ハ毎日一様の食物を孩子に與ひたる母親に之れあると
と存候。總て孩兒に與ふる食物及飲料ハ其母親たるもの
必ず毒味せらるべきとに候。

問。孩子の食欲大に增す時ハ如何致すべく候や。

答。孩子の食欲盛にして常よりハ多量の食物を望む時
ハ肉類或ハ飯の如きハ常の分量を與へ、乾きたる麵包、輕
燒、カステーラの如きものを與へ眞に食量の不足あるや
否を試みらるべく候。

問。孩子の遽に食欲を失ひたる時にハ如何様なるとに
注意致すべく候や。

答。孩子の食欲を失ひたる時ハ必ず身體に不安ある所

六八

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

之れあるべし、第一注意せらるべきは齒齦よして齒の生へる爲め赤くなり熱を持ち腫起ることあり、斯くの如き時には醫師に送りて齒齦を切らすること肝要のことに候。齒齦に變りたることなく齒の發生る摸樣も見えざる時ハ便秘することなきや、大便の通じ之れある時ハ其色合、稠度、臭氣、度數に異常なきやを撿せらるべし、之れ等に甚き異常あるか或ハ食欲の遽に減じたる原因を索ること能はざる時ハ醫師の診察を乞はるべく候。孩兒の食欲なき時に强て食物を進むるは大害あることにして之れが爲めに腸胃を害し、或ハ嘔吐、下利、熱を發さしむることあるものに候。胃、腸に病あるか或ハ身體に熱あるか或ハ他に安すから

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ざる所ある時ハ腸胃も食物を消化する力衰ふるものに候へバ、その食欲の減ずるハ自然の良能に御座候。然るに觀是なき孩子を僞して食物を强ひ反て大患に陷るゝハ大に罪あると存候。

問。孩子の食物の制限ハ如何に致すべきものに候や。

答。消化し難きもの或ハ小兒に不適當なる食物を妄に孩兒に與ひらるゝハ申すまでもなく大害あることに候へ共、食物の制限を餘り嚴格致すも宜きことに之れなく候。

産室のこと

○女子生理（第十五回）　船越鼎太郎講

第三章　分娩の事

分娩の準備

分娩の時に用ふる室ハ分娩後産褥室に供るものなれバ豫め茲に注意して空氣の流通宜く閑靜にして明爽一室を撰み清潔に掃除し置くべし。其室内にハ無用器具或ハ臭氣ある物品などを置く可からず。夜間ハ燈火を點し、寒冷時候にハ火鉢或ハ暖爐を設け室内を適宜の温度に保つべし。分娩の時にハ産婦自然に體温を増すものなれバ室内を餘り温にするは宜しからず、反て出産する時間を延ばすものなり。夏日ハ窓を開きて凉風を迎ふべし。室内

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

産牀のと

狹小なき時ハ屛風を用ふると大に便利なり、之れ他人の室内に入るとあるも直に産婦を見るとなく又日光の直攝に射入とを碍ぎ或ハ冷氣の遽に變換とを防ぐを得べし其他醫師産婆看護婦にも大に便利を與ふるものなり。

七二 産婦の臥床は土地の慣習に從て各同じからず、然れども我邦一般の風俗に最便利にして攝生法に適ふなからんと考ふるものハ、硬き蒲團の上に二枚の油紙を敷きその上に蒲團の上布を敷くべし、若し蒲團軟にして厚きときハ産婦の身躰これに陥沒大に不便なり、又二枚の油紙を要するハ其上層の一枚ハ出産の際出血を以てその不淨を除くに供へ下層の一枚ハ産後惡露の爲めに蒲團の穢る

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

産婦の衣服

を豫防ために供ふ、殊に二枚の油紙の間に一枚の蒲團上布を敷くときは上層の油紙を除きたる後も寒冷不快なる感覺をなすとなく大に便利なりとす、油紙の大さは其巾蒲團と同一にして其長さは蒲團の半なるを以て足れりとす。臥床ハ室の一隅或ハ壁襖に接けて設く可らず必ず其周回を産婆若くは看護人の歩行得る程に設くべし。

既に述へたる如く、出産の時には自然に熱を發するものなれば産婦の衣服ハ厚きに過く可らず。又出産の時には發汗及出血等の爲めに汚るものなれは夏日ハ浴衣を着、冬日なれは之れに寢衣等を重ね細帶を結び居るを便利なりとす。狹き衣服廣き帶の如きは用ふ可らず。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

頭髪のこと

産後數日の間ハ梳ことを禁ずるを以て、分娩前に豫め頭髪を洗ひ置くべし、然ざさるも看護人をして梳らせ適宜に結び置くべし。

準備すべき物品のこと

豫め産兒の衣服及ひ臥床などを具ひ置き、臍帯を截り洗ひたる后直に用ふるやうにすべし。又胡麻油或ハオレーフ油及ひ麻を整ひ置き醫師若くハ産婆の之れ等を要するとあるも差支なき様に致し置くべし。其他生兒を洗ふため水盥及温湯と清水とを準備すべし。又室内の一隅に便器を用意し産婦の兩便に供ふべし産婦をして猥に上圊しむるときハ過て圊所に出産するの恐あり。

産婦の飲食

産床に入る前に消化易き食物ハ食して妨なし。分娩の輕

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

産室中に群集す可らざること

くして短きときは食物を要せずと雖分娩するに久しく彌り産婦食物を求むるときは飲料或ハ易化き食物を小量づヽ數度與ふべし、然らざれは嘔吐を起すものあり。産婦渇を訟ふるときは温き茶或ハ葛湯の如きものを與へらるべし。

産室の中に數人羣集る時ハ室内の空氣を不潔にするのみならず、談話笑聲の爲めに喧しく産婦の精神を平穏にすると能はず、所謂船頭多けれは船を岡に乘り上ぐると云ふ譬の如く種々の混雑を生じ大に害あるものあり。故に産醫の外には産婦の看護人と産婦に親き一婦人を以て足れりとす。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

産婦の母親のこと

凡て産婦を看護する婦人ハ既に講述致たせし如く饒舌の人ハ宜しからず、殊に己等の見聞したる難産の談話の如きハ最も忌むべきことにして之れが爲めに産婦を其談の如き不幸に陥るゝことあり。喧噪しき談話笑聲ハ宜しからずと雖面白き氣に入る樣な談話を靜に致すことハ大に益あるものなり、但し分娩の末期に至らバ産婦を勵ます言と慰むる言の外ハ談話をなす可らず、反て産婦に五月蠅思ハしむるものなり。

分娩の時に産婦の母親、産室内にありて大に産婦を慰むることあり、然れども母親の産室内にあるハ産婦を勵まし或ハ慰むるよりも己れの心配の爲めに反て産婦を苦む

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る如きことあらバ産室に在らずして他室に居るべし。慈母の其家の中に居ることハ大に産婦の精神を慰むる者なり。

産醫ハ撿査を乞ふべきこと

産婦ハ産醫に豫め充分なる撿査を乞ふべし、之れ最も大切なることにして實に此巧妙なる撿査に由て産路の摸樣及胎兒の位置を確にし豫め出産の難易を知るを得べし、殊に破水前に之れを確めることを得ハ難産に陷らんとするものにても之れを救ふに便利なり。本邦にてハ難産の際醫師の招かるゝハ多くハ破水したる後にあり醫師ハ手術を行ひ難く産婦胎兒にハ危險多し、實に歎ずべきことなり。

産醫心得のこと

産醫ハ先つ産婦に向ひ分娩ハ生理的の作用にして常に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

産婦通利のこと

無難なることを説き、撿査を行ひたらば産路及胎位に別條なき時は之れ告げ、己れの命ずる方法に從ひなば決して危險のことなかる可きを説き。分娩の進むに從て其良經過を取り居ることを述ぶべし。之れ大に産婦の精、神を勵まし大に心を安ずるものなり。産室中にありて唄き或は瞇せするは最も謹むべきことなり、若し産婦の耳目に達する時ハ意外の狐疑を蒙むること。ある分娩の時に變常あるも決して之れを産婦に悟らしむ可らず。

産婦の便通如何に注意することは大切なることにして若し便秘することあらば萆麻子油一食匙を一回に用ふへし、産婦萆麻油を飲むことを好まざるか或ハ惡心あらば温湯の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

藥劑を徒に用ひ間敷きこと

灌腸を行ふべし。斯くして。大便の通利を得るときハ腹内大に餘地を得るが故に苦痛を減じ、分娩を容易にするものなり。又産婦ハ分娩の間に數々利尿を致すものなり、之れに由て亦腹内に餘地を得大に自由となり、快く感じ、分娩を容易ならしむるものなり。然るに尿意を催すと頻りにして利尿すると能ハざる時ハ醫師に乞ひカテーテルを通して之れを漏すべし。

分娩の時に醫師の差圖なくして藥劑を用ひ或ハ徒らに卵膜を破り分娩を速に致さんとするが如きハ甚だ危險なるとにして此くの如き粗暴なる所爲の爲めに意外の不幸を招くとあり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣　告

●女學雜誌殘本大安賣

女學雜誌は毎號に御承知の如き、社說、佳傳、叢話、及び諸家の論說等あり且其時々の新報を洩なく掲げたるものなれば、右第一號より第百號に至る百冊を御覽あれば即ち一百八の賢婦烈女の傳記、一百篇の有益なる社說、三百餘篇の面白き叢話、六十餘人の名家の婦人論ありて、其上明治十八年より明治二十一年に至る凡そ三年間の女の出來事を悉皆承知することを得べし。之を合して机上に置かるれば大ひなる姫鑑となるべし、之を遣ひ物にせらるれば凡そ五圓以上の代價何圓と申しきれぬ實價候はん、時々の浮たる小說、もしくは一二百頁の婦人論の書物を講讀せらるゝよりは必らず利益多かるべしと確信せり、而して此の一百冊を左の低價にて賣拂ひ可申候

女學雜誌初號より百號迄で何號にても百冊御購求被成下候諸君へは特別割引**金壹圓**にて御望の號數取揃發送可致候

但し愛讀諸君より續々御注文にて當時欠號廿四五冊出來致し候に付き一號より百號迄一揃ひ七十冊餘御注文の諸君へは一冊壹錢の割引即ち**金七拾錢**にて發送可致候

府外は別に郵送料七十錢申受くべし尤も通運等に便利なる土地は實費を以て御屆可申上候

右は殘本を取まとめ候ものに付き成べく早く御注文無之に於ては早々出はらひ可申と信じ候

東京々橋區日吉町八番地

女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

●通信女學講義録　殘本安賣

通信女學講義録は毎月一冊發兌にて大抵六七十枚づゝあり母親又は妻君方が家に在りて女學の一と通りを學ぶの工夫なれば毎月其一冊を讀みて行き二三年を經れば和學理學地理歴史及び子育方、女子生理、家内理學、經濟學などの一斑を承知す[illegible]し。之は一冊二十錢にて半年前金一圓一年前金二圓也。當十一月にて既に第十四巻を發兌したるが第十三號よりは讀者大に増加したるより續つて第一巻より第十二巻迄凡そ一年分は都合五十部ほど餘まり居るに付之を賣拂ふべし即ち其定價は減じて**十二冊**從一巻至十二 **一圓**及び郵税**廿四錢**にて賣拂ふべし尤も五十部より外は即ち第十四巻まで揃ろひ居るに付き定價通りならでは賣拂ひ不申候よつて右御入用の方は至急御申込ありたく候事但し東京區内は配達料十二錢

女學雜誌社

定價	是迄發兌の	廣告の事	期日
通信女學講義録一冊七十頁以上定價二十錢 半年分前金一圓一年分前金一圓八十錢也 但し右[illegible]郵税を要せず	前號まで既に十四號と相成り即ち一ヶ年分餘を出版したること[illegible]凡是迄の分を一まとめにして買入らるゝには同じく右の割引を致すべく。通信女學は初めより引續き御覽なくては利益も少かるべき[illegible]候に付改て從前の號數[illegible]	廣告料一行[illegible]に改む但し二十行以上は一割[illegible]以上二割引とす。此講義録は久しく保存せられ永久貴婦人方の机上に備置かるゝ品のゆへ之に廣告せらるゝは他の一日限りの新聞紙もしくは一時流行の雜誌などに廣告せらるゝよりは御便利多かるべしと存候事	本録は毎月十五日を定日として出版す同日もし日曜日に當れバ其翌日といたし候

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京々橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

東京秀英舍印行